

「もったいない」

誰もが普段何気なく口にしたり、耳にしている言葉ではないでしょうか。今、「もったいない」という言葉が、注目を浴びています。

県内でも、ケニア副環境大臣ワンガリ・マータイさんの提唱をきっかけに「もったいない運動」が盛り上がりつつあります。

今回は、「もったいない」をキーワードに、豊かな地球環境を未来に引き継いでいける社会について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

特集

1

「もったいない」の 心で未来を!

循環型社会を目指して——

未来のために

地球の悲鳴が聞こえますか?
深刻な地球環境問題

私たちは、森を切り開き、街や道路を作り、また石油・石炭などからエネルギーを得たり、さまざまな生活用品を製造するなど、経済優先の考えで豊かさを追い求めてきました。しかし、地球は今、こうした人類の活動に耐えきれずに悲鳴を上げています。地球温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨の発生、野生生物種や熱帯林の減少、砂漠化の進行など、深刻な環境問題を招いています。このままでは人類の生存さえも危うくなると予測されています。

「もったいない」は
循環型社会の
キーワード

地球環境を健全な姿で未来に引き継ぐためには、省エネルギーやごみの減量化、リサイクルの推進など、自然環境に負担をかけないで自然と共生しながら持続可能な社会とすること、つまり循環型社会を形成することが求められています。

「もったいない」
運動とは

この取り組みをわかりやすく表現するキーワードが「もったいない」です。この言葉は、「物を無駄にしない」とともに、「ありがたい」、「おそれ多い」という意味を持ち、自然や人を大切にすることを教えています。「もったいない」の心で、私たち一人一人が率先して生活や行動を見直し、環境にやさしい生活に変えていくことが必要です。

環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したケニアの副環境大臣ワンガリ・マータイさんが提唱しているのが「もったいない運動」です。今年2月に来日した際、「もったいない」という言葉が、自身が取り組んでいる「3R(ごみの減量・リデュース、再利用・リユース、再利用)リサイクル」をわかりやすく表現していることを知り、大変な感銘を受けました。以来、マータイさんは国連の会議などにおいて、限られた資源を有効に利用しようとする世界に向けて「もったいない運動」を呼び掛けています。

県内の 「もったいない」の 取り組み

県内に広がる
「もったいない」の心



県商工会連合会
4R運動パネル

抑制(リフューズ)を加えたもの」
を、わかりやすく
表現していること
から、「もったいない
運動」と協力して

「もったいない」の「もったいない
運動」の呼び掛けに、県内でい
ち早く賛同したのが県商工会
連合会です。「もったいない」と
いう言葉は、平成9年から進め
てきた「4R運動(3Rにこみの

展開することを決定。今年の4
月には、「もったいない運動」の精
神を県の循環型社会の形成の
施策において取り入れることを
要望するなど、一層取り組みを
強化しています。
”つづくしま、ふくしま。県民
運動の推進会議でも、県商工会
連合会の支援要請を受け「もっ
たいない運動」の全県的な展開
の支援を決定しました。8月21
日の県民の日には「参加しない
と『もったいない!』フォーラム」を
開催。ルワンダの教育を考える



マリルイズさん

会のマリル
イズさんの
基調講演や民話語り部による
地域に伝わるもったいない話、県
内の環境活動の実践者によるパ
ネルディスカッションが行われ、
来場者に「もったいない運動」への
参加と全県的な拡大への協力
を求めました。
「もったいない運動」は県内各
地に広がっています。

環境チケットで二石三鳥 「三春町商工会女性部」



倉生地を使用したオリジナルバックで
マイバック運動を呼び掛ける女性部員の方々。



環境チケットは何度も
繰り返し使われます。

三春町商工会は、平成9年か
ら4R運動に取り組みました。
女性部ではマイバック運動を
展開しています。より効果を高
めるため平成11年には、環境
チケットを導入しました。この
仕組みは、お店が商工会から
1枚3円のチケットを購入。レ
ジ袋は不要というお客さんに
チケットを渡します。チケット
10枚で町指定のごみ袋1枚と
交換できます。お店はレジ袋
の仕入費用が減少しますので
新たな負担はありません。お
客さんもお店も得して、ごみ

を減量できる、二石三鳥の仕組
みです。昨年1年間で7500
枚のレジ袋が節約されました。
現在、町内84店が参加してい
ます。お店の工夫により、シー
ルやスタンプカードなど、既存
の仕組みを活用することもで
きます。

この取り組みにはお客さん
の理解が不可欠です。使い終わ
ればごみになってしまいうレジ袋
「もったいない」と考え方を変え
て、マイバック運動に取り組ん
でみてください。

「もったいない」への 県民の皆さんの一言



いわき市 吉田 薫さん



●
みもの収集所を見ると
ふとんや電気器具な
ど使えるのではと思うものが
たくさん捨ててあります。もっ
たいないだらけだと思います。
私は、衣類は捨てないでフ
リーマーケットに出しています。
着ることができないのに捨てて
しまうのはもったいないです。

いわき市 佐藤 裕幸さん



●
電
気のつけっぱなしや必
要なのに電気を使っ
たりすることがあります。
もったいない運動については
聞いたことがありますが、中身
はよくわかりません。わかりや
すく提案してほしいと思います。

●会津坂下町 大野 文子さん
城郷 恵理香さん
奈雄子ちゃん



●
水
がもったいないですね。
雨水をためて洗濯や花
の水、靴を洗ったりしています。
家の周りに2カ所、お風呂
くらの大きな箱を置いて、
桶の雨水がたまるようにして
います。梅雨時は毎日、洗濯
の最初の水に使用しています。
近所でも評判ですよ。

「もったいない」は、「人や物を大切にする」という優しい心、「ありがたい」という感謝の心、「おそれ多い」という謙虚な心という3つの美徳が込められた、日本人に伝統的に引き継がれ



福島県知事
佐藤 栄佐久

「もったいない」の心を生かして

てきた心の琴線に触れる言葉です。

県では、本県の豊かですつくしい環境を将来の世代に引き継いでいくため、この「もったいない」をキーワードに、これまでのライフ

スタイルを見直し、環境への負荷の少ない循環型社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

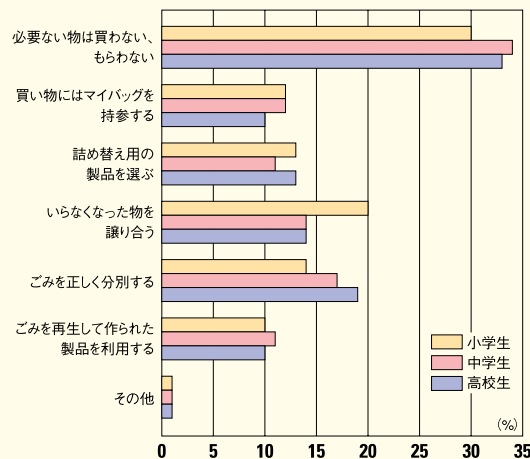
皆さんも「もったいない」の心で、環境にやさしい取り組みを実践してください。

「もったいない」に関するアンケート調査

(小・中・高校生2,453人)

「もったいない」という言葉は約98%が「知っている」と答えています。「ものを大切に、無駄にしない」社会をどうすれば良いかとの問いには、3Rの考え方と合致した回答が多数を占めました。

●あなたは「ものを大切に、無駄にしない」という意味の「もったいない」ということを大切に社会を作るために何をすれば良いと思いますか？(2つまで回答)



坂下小の学校生活に定着している「紙食い箱」。一年生でもきちんと活用しています。



「子どもたちの活動に感心させられます」と語る玉川校長先生。

紙食い箱で古紙のリサイクル 「会津坂下町立坂下小学校」

「紙食い箱」の取り組みは、昭和60年に始まりました。各教室や職員室、廊下などに設置した「紙食い箱」に、不要な紙や使用済みの紙を一時保管します。メモや図工の下敷きなど、紙が必要な時は「紙食い箱」から取り出し再使用します。使えなくなった紙は、最終的に町の資源物収集日に回収され、再生紙となります。坂下小学校では、子どもたちも教職員も普段の学校生活の一部として環境活動を20年以上継続してきました。小さな取り組みを

続けていくことが大切ですね。もったいないと言えば、会津坂下町では、給食センターの栄養士さんが給食で使用した材料について説明してくれ、町のどこで誰さんが作った野菜だとか、こんな風に調理したとか、顔の見える関係で食の大切さを教えてくれます。給食を作った人に感謝し、食べ物を大切にすると、「もったいない」感覚を子どもたちの身近なところで養っていくことが重要だと思えます。



●会津若松市 会津若松市 ボランティア連絡協議会の皆さん

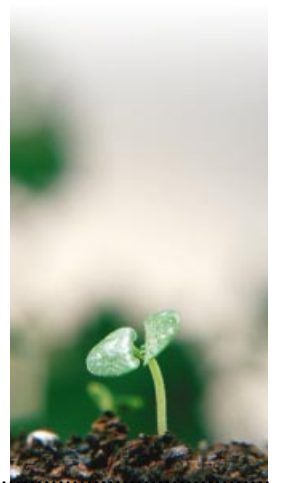
物 を大事にする心が崩れてしまっているようです。一度、崩れるとダメですね。もったいないのキャンペーンは、一定期間だけでなく、一年中やっています。長く続けることが大切ですから、県の封筒の下を再利用するアイデアはいいと思います。



●会津若松市 川島諒輔さん 波部光祐さん

県 の取り組みについては聞いたことがないです。みんなにわかるようにテレビでお知らせしてほしいです。屋の番組ではあまり見られないので、夜、CMでやればいいと思います。

県の取り組み



「もったいない」の心が生きる社会を
目指して

県では、今年の3月、循環型社会の形成に関する施策を総合的、計画的に推進するため、「福島県循環型社会形成に関する条例」を制定しました。また、来年3月を目途に、循環型社会形成推進計画を策定することとしています。県が目指す循環型社会は、次の3つの社会をいいます。

県が目指す循環型社会の3つの柱

1 「自然と人が共生する社会」

自然循環が保全された社会

大気、水、土壌、生物などの間を物質が循環する「自然循環」が健全に保たれるよう、自然の生態系などに配慮した社会です。

2 「ごみ」のない社会

適正な資源循環が確保された社会

限りある地球資源を有効活用するために、その消費の抑制に始まり、3Rを進めるなどして、資源として自然界から採取された物質が原材料や製品などとして循環する「資源循環」が適正に保たれた社会です。

3 「もったいない」の心が生きている社会

心の豊かさを重視した賢い生活様式 および行動様式が定着した社会

「もったいない」の心が生かされ、ものを大切にする、人や自然を愛するなど、心の豊かさや生活の質を重視した賢いライフスタイルが文化として定着した社会です。

※「適正な資源循環」だけでなく、「自然循環の保全」という考え方を取り入れたり、「ライフスタイル」にまで言及しているのが福島県の取り組みの特徴です。

③「もったいない」の心が生きている社会

自然や資源を大切にし、循環型社会をつくらう!

循環型社会を形成していくためには、行政はもちろんのこと、県民、事業者、民間の団体など、さまざまな主体が連携しながら「県民総参加」で進めることが重要です。日常生活の中で、次のようなことに気をつけてみましょう。

- 物を大切にする、無駄にしない(ごみの発生抑制)
- unnecessaryな物は買わない、もらわない(ごみの発生抑制)
- いらなくなった物を譲り合う、フリーマーケットなどの利用(再使用)
- ごみを正しく分別したり、資源ごみの集団回収に協力する(再生利用)
- リサイクル素材で作られたものなど、環境に優しい商品を購入使用する
- 省エネルギーを心掛ける

「自然は循環している」「資源は循環している」といった視点から、皆さんの普段の生活や行動をもう一度見つめ直してみてください。今日からでも遅くありません。「もったいない」の心で実践しましょう!

問 県庁循環型社会推進グループ ☎024(521)7813 ④http://www.pref.fukushima.jp/jyunkan/

「ポインセチア」

花編



いいもの
発見
うつくしま



華やかな色彩のポインセチアは冬の代表的な鉢花のひとつです。クリスマスを彩る花として定着し、贈り物としても人気があります。

花びらのように見える鮮やかな部分は、苞葉(ほうよう)という葉が変形したもので、その真ん中にある黄色い部分が花です。赤が一般的ですが、他にもピンク、白、黄色、斑入りなどがあり、色を選ばず楽しみがあります。

県南地方、相双地方などが主な産地です。県内の栽培



花言葉は「聖なる願い」「祝福」。あなたの思いをポインセチアに託して伝えてみましょう。

培技術の水準は大変高く、全国レベルの品評会などで、これまで多くの賞を受賞しています。